

緑の相談コーナーだより

 いわみざわ公園バラ園 www.iwamizawa-park.com

今月の便り

ジャガイモの呼び名・・・2

ジャガイモの呼び名に伝来した地名をつける例もあります。ジャガイモはジャガタラに由来しますが、馬鈴薯は中国語からとったものです。甲州イモ、信州イモ、秩父イモなどは取り寄せ先の地名を使ったものです。人名では、甲州代官中井清太夫に由来するセーダイモ、セーダが山梨県にあります。ジャガイモは古くから日本にあったものではなく、16世紀末？に長崎に入ってきた比較的新しい植物です。その割に多数の別名があるのは、ジャガイモが私どもと密接なかかわりがあったことを示しています。呼び名を研究機関の看板からひろってみますと、道立北見農業試験場には「馬鈴しょ科」というのがあり、農水省の北海道農業試験場には「ばれいしょ育種研究室」、また長崎県の試験場には「愛野馬鈴薯支場」というのがありました。これらは、漢字とひらがなの比率が少しずつ違っていますが、このように官庁とか農協ではひらがなの「ばれいしょ」を使うことが多く、学会などではカタカナの「ジャガイモ」、北海道の一般の人は単に「イモ」を使うことが多いので、一つの資料でも担当者によっていろいろ書かれます。(ながやす)

虫の話

空知地方では今年クスサンは少なめ。その代わりマイマイガは大量発生。春先はドクガの幼虫も沢山見かけました。私の庭では3種類のマルハナバチが飛び交い花から花へ。アリやハバチなどハチ目の昆虫は沢山います。7月の初め頃一気に飛び立つはずのナガチャコガネは出沒の日にちがまちまち。代わりにセマダラコガネを多く見かけます。バラもアブラムシは少なめですが、蕾に食らいつくバラゾウムシは多いです。アブラナ科の植物の樹液を吸うナガメというカメムシもセリ科に付くアカスジカメムシも相変わらずの存在感。7月に小さかったバッタ目の昆虫が8月には成虫になって綺麗な羽音を響かせるはず。身近に心あたりの虫はいますか？様々な野外活動をしたり、園芸をするにあたって虫は人間にとって難敵なので良く見かける虫の名前と特徴は覚えておく事をおすすめします。暑い夏。庭のある人は朝涼しいうちに長袖を着て虫のパトロールをすると早めの対処に繋がるでしょう。

トケンラン

トケンラン(杜鵑蘭)は国内では北海道、本州、四国、に分布するラン科の多年草です。道内では石狩、空知、胆振と道央圏に多くみられます。花の紫色の斑点を鳥のホトトギスの胸の斑紋に見立てたといわれます。トケンとは、杜鵑(ホトトギス)の音読みで、カッコウ科の鳥の古い呼び名です。北海道では「ホトトギス」は道南にしか生息せずあまり馴染みがないのですが斑点がある植物はなぜかホトトギスの名が付くものが多くあります。斑点は個体差